

男女共同参画・多様な視点 みんなで備える 防災・減災のてびき



東日本大震災の教訓として、男女のニーズの違いや多様な生活者の視点に配慮した防災・減災対策、地域住民の自助・共助の取組の重要性が指摘されました。

災害時も性別や年齢、障害の有無、国籍等々にかかわらず、避難所等において被災者一人ひとりの人権が守られ安全に安心して生活できるようにするためには、平常時から男女共同参画や多様な視点からの防災・減災の取組について理解を深め、実践することが大切です。



このてびきは、東日本大震災の教訓を踏まえて、「男女共同参画・多様な生活者の視点」「自助・共助の視点」から防災・減災のポイント(災害別の安全対策を除く)について、地域防災関係者を始め広く一般県民の皆さんに知っていただくために作成したものです。

平常時から災害に備えましょう

防災は、『自助』（自らの身の安全は自ら守る）が基本となります。大規模災害時に被害を最小限にする減災対策として、自助となる個人や家庭での備えに努めるとともに、災害時に『共助』の力を発揮できるように、日頃から地域の一員として防災等の地域活動に積極的に参画することが大切です。

家族で話し合っておきましょう

- 災害時は普段の連絡手段が使えなくなる場合があります。事前に、家族の共通の連絡先や安否確認の方法、避難場所等を複数決めておきましょう。
- 緊急連絡カードを作成し、話し合っただけのことや家族の連絡先・電話番号、治療を受けている人は普段処方されている薬の種類・量・服用方法などをまとめて持ち歩きましょう。

個人や家庭のニーズに応じて備蓄を工夫しましょう

- 食料や生活必需品など、災害時に必要な物資をそれぞれのニーズに応じて「非常持ち出し品」と「非常備蓄品（最低3日分）」に分けて備えましょう。
- 食物アレルギー等がある場合は、個人での備蓄以外にも、災害時にどこで入手が可能か確認しておきましょう。
- 地域で備蓄する場合は、女性や妊産婦、乳幼児のいる家庭、高齢者、障害者など地域の多様な生活者の意見を反映させて品目を選定しましょう。



東日本大震災では・

発生直後は、避難所等において、生理用品や粉ミルク、おむつなど女性や子育て家庭、高齢者等の生活必需品が不足しました。個人で備蓄するとともに、地域の備蓄品について確認しておくことも大切です。

セットで
備蓄するなど
工夫しま
しょう

生理用品のセット

- 生理用品
- サニタリーショーツ
- 清浄綿
- おりものシート
- 中身の見えないごみ袋

授乳用品のセット

- 粉ミルク（調製粉乳）
- アレルギー対応ミルク
- 乳幼児用飲料水
- ほ乳瓶
- ほ乳瓶用の消毒剤
- 湯沸かし器具（乾電池式か発電式）



成人用おむつのセット

- 成人用おむつ
- 尿取りパッド
- おしりふき
- 中身の見えないごみ袋

*早期に必要な生活必需品は、一つの袋に入れて備蓄すると使用時に便利です。



大事な情報を得るための手段を複数確保しておきましょう

- 災害時には、災害の状況や避難勧告等の情報を得ることが避難等の判断をする上で大変重要です。災害時の場面を想定し、複数の手段を準備しておきましょう。



防災訓練や学習会を工夫し、男性も女性も多様な世代が参加するようにしましょう

- 災害発生時の想定一つとっても、昼間と夜間、平日と休日では避難する人も避難の仕方も異なります。性別や年齢、障害、国籍など様々な住民が参加し、より実践的な訓練等を行いましょ。活動を通して日頃から地域の交流を図ることが災害時に大きな力となります。
- 妊産婦や乳幼児を連れた保護者、高齢者、障害者等避難に支援が必要な人たちが、安全で確実に避難できるように、避難誘導や介助について工夫しましょう。
- 訓練をする場合は、炊き出しが女性だけの担当になるなど、性別や年齢等で役割を固定化することのないようにしましょう。



防災訓練・学習会（例）

- 避難経路・避難時間の確認
- 避難所の開設・運営の訓練
- 妊産婦、乳幼児、高齢者、障害者等の安否確認や避難誘導・介助
- NPO・NGO・ボランティア受入体制

東日本大震災では・

地区自主防災会を立ち上げ、日頃から想定にとられない防災訓練や防災マップづくり等の防災活動を継続していたことにより、住民が協力し合って津波から迅速に避難できた事例がありました。

地域の実情を踏まえた防災活動の工夫とともに、活動を通して地域住民のコミュニケーションが図られていたことが、住民の命を守ることにつながりました。

- 平常時から、地域住民等で『避難所運営委員会』を組織し、災害時の「避難所運営体制」や「避難所生活のルール」、「男女共同参画等の視点からの運営上の留意点」等について話し合い準備しておくことが、災害時の迅速な対応につながります。



- 災害時に防災ボランティアと効果的に連携するために、平常時から地域の『受援力』（支援を受けられる力＝ボランティアを地域で受け入れる体制や知恵など）を高めておくことが大切です。

※防災ボランティアのページ（内閣府 防災情報のページより）▶ <http://www.bousai-vol.go.jp/>

もし大規模災害が起きて、避難所での生活となったら…

万が一大きな災害が起きて避難所生活となった場合、互いに助け合いながら安全に安心して生活を送ることができるように、男女のニーズの違いや妊産婦、乳幼児、高齢者、障害者、外国人など多様な被災者の視点に配慮することが必要です。



避難所を開設するときは プライバシーや安全・安心な空間を確保しましょう

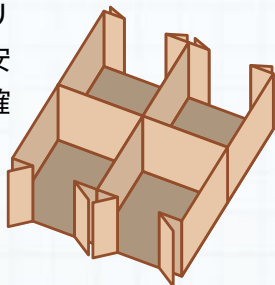
●開設当初から設置しましょう

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 授乳室 | <input type="checkbox"/> 男女別トイレ |
| <input type="checkbox"/> 物干し場 | <input type="checkbox"/> 更衣室 |
| <input type="checkbox"/> 休養スペース | <input type="checkbox"/> 救護室 |

※昼夜問わず、女性も子どもも安心して使用できる場所に設置しましょう。

●ユニバーサルデザインのトイレ、高齢者等のための洋式トイレや簡易ベッドの準備も必要です。

●妊産婦や乳幼児・高齢者・障害者のいる世帯、単身女性や女性のための世帯など、被災者の状況に応じて、小部屋やパーティション等でエリアを設定するなど安全・安心な空間を確保しましょう。



●妊産婦や乳幼児、高齢者等の健康に配慮し、感染症予防対策など衛生的な環境の確保に努めましょう。



東日本大震災では…

混雑した避難所の中で、授乳室や更衣室がなく布団の中で着替えたり、夜間にすぐ近くに見知らぬ男性が寝ていて女性が不安を感じたりという状況もありました。避難所を開設してからでは、設置が困難であるため、予め最低限必要な空間を確保することが大切です。

仮設トイレは、和式のために高齢者が使いづらい、トイレが避難所の出入り口から遠く夜は暗いため、安全面等で不安があるなど、様々な課題がありました。



介護を要する高齢者や障害者のいる世帯、乳幼児世帯等は、避難所の環境が整っていないことや周囲への遠慮から、車や一部損壊した自宅での避難生活を余儀なくされた人が多くいました。



コミュニケーションを大切にしながら、 よりよい生活環境をつくりましょう

～ 運営には、男女両方が 参画しましょう ～

避難所の開設後は、早期に避難者等の自治的な運営に移行することが重要です。

運営組織には、男性も女性も参画し、運営責任者などの役員のうち、女性が3割以上は参画するように工夫して、女性が意見や要望を出しやすい環境をつくりましょう。

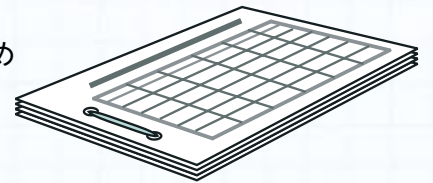
東日本大震災では・・・

避難所等において、女性の要望や意見が重視されない傾向にあったことが報告されています。また、女性が意見や要望を言うと避難所にいづらくなるのではという不安などから、要望等を我慢する傾向がありました。責任者に女性も参画することが求められています。



避難所が落ち着いたら、ルールと名簿をつくりましょう

- 互いに協力し合って避難所生活を送るために、生活のルールが必要です。多様な避難者の意見や話し合いを踏まえてつくることが良好な関係づくりにもつながります。
- 避難者それぞれに必要な物資やサービス等のニーズを把握するために、避難者名簿を作成しましょう。
- 避難者の個人情報の取扱い・管理には十分注意しましょう。また、DV等の被害者で、加害者から危害を受ける恐れのある避難者については、加害者に居所を知られることのないように個人情報の管理を徹底する必要があります。



避難所の仕事をみんなで分担しましょう

- 避難所の運営にはいろいろな仕事があります。個人の特技や自主性等を尊重して分担するとともに、メンバーや責任者には男女両方が入るようにしましょう。

<参考例>

- 総務班** 運営委員会事務局、運営全般の調整
- 名簿班** 避難者名簿の作成・管理
- 情報班** 情報の収集・提供、掲示板の運営
- 食料・物資班** 食料や物資の調達・受入・管理・配布
- 救護班** 傷病人、高齢者・障害者等の対応
- 衛生班** 保健対策、健康調査、ごみ等のルール徹底



- 特定の人にだけ負担がかからないように、男女が共同して作業したり、ローテーションを工夫したり、責任者を交代制にしたりする工夫が大切です。



女性用品などの配布方法を工夫しましょう

- 生理用品や下着等の女性用品は、女性の担当者から配布したり、女性専用スペースや女性トイレに常備したりするなど配布方法を工夫しましょう。

- 事情があって避難所等に避難していない被災者にも、女性用品や乳幼児用品、大人用おむつ等の物資を提供しましょう。



東日本大震災では・・・

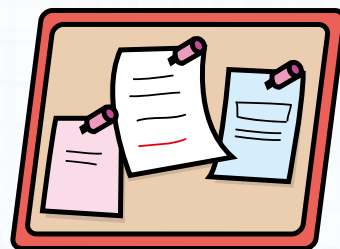
物資担当者が男性だったために、女性が恥ずかしさから生理用品や下着をもらいに行きづらかったり、男性に女性用品の知識が乏しいために女性の要望に応じた支援物資の供給ができなかったりしたことが報告されています。



情報の確実な伝達に努めましょう

- 被害の状況や安否情報、行政からの支援情報など、被災者にとって必要な情報をわかりやすく確実に伝えられるように伝達方法を工夫しましょう。

特に視覚・聴覚障害者や高齢者、言葉の通じにくい外国人等に配慮しましょう。



女性や子どもの安全を守りましょう

- 女性や子どもへの暴力等を防止する対策を工夫し、暴力を許さない環境をつくりましょう。

- 死角をなくし、暗い場所等には照明をつける
- 複数で行動するなど自衛を呼びかける
- 就寝場所や女性専用スペース等の巡回警備、防犯ブザーの配布、暴力禁止ポスター掲示

など



子どもの生活環境に配慮しましょう

- 生活のリズムを整え、子ども同士が安全に遊べる場所や機会を工夫するなど、子どもらしい日常生活を送れるように配慮しましょう。

避難生活が長期化したら…



被災者のニーズの把握に努めましょう

- 避難生活の長期化に伴って、被災者の生活やニーズは日々変化します。男女のニーズの違い等にも留意しながら、ニーズを把握して的確に対応することが大切です。
- 特に妊産婦や乳幼児、高齢者、障害者、外国人等に配慮し、状況に応じて関係機関等と連携して対応できるようにしましょう。



心のケアに配慮しましょう

- 悩みやDV等の相談窓口について周知しましょう。その際は、被災者が人目に触れずに相談窓口等の情報を得られるように工夫しましょう。
- 避難が長期化すると、被災者は悩みやストレスを抱えがちになります。被災者が気軽に集える場やストレスを和らげる機会を工夫しましょう。



避難者も自立への準備をしましょう

- 避難生活の長期化に伴って、被災者が日常を取り戻せるような支援（洗濯や入浴、子どもたちが学習できる環境など）が必要となります。被災者自身も自立意識をもって避難所の自主運営にできる範囲で参画することが、生活再建に向かう力につながります。

日頃から、男女がともに担い 支え合う地域づくりに努めましょう

- 災害時に、男女が力を合わせて災害対応に当たるためには、日頃から家庭や職場、地域などで男女共同参画を進めることが不可欠です。

地域コミュニティや防災対策等の意思決定過程、自主防災組織等の活動への女性の参画を促進し、男女が共に責任を担い支え合う地域づくりに努めましょう。

- 日頃から性別や年齢、障害、国籍等にかかわらず地域の活動や防災訓練等に積極的に参画しましょう。そのことが地域の「共助」の力を高め、防災力の向上にもつながります。



男女共同参画社会の実現、それは女性にとっても男性にとっても生きやすい社会をつくることです。

宮城県では男女共同参画推進条例や男女共同参画基本計画に沿って、男女が互いの人権を尊重しつつ共に責任を分かち合い、性別にとらわれず個性と能力を十分に発揮できる社会をめざしています。

男女共同参画サイト とらい・あぐる・みやぎ
(宮城県共同参画社会推進課 男女共同参画推進班ホームページ)

<http://www.pref.miyagi.jp/site/kyousha/>

平成25年11月発行
発行者 / 宮城県

このてびきは、下記資料と「男女共同参画・多様な視点での防災ガイド」作成委員会でのご意見を基に作成しています。

《主な参考資料》内閣府(防災担当)：避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針

内閣府男女共同参画局：男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針

宮城県地域防災計画

《作成委員会》学識経験者、自主防災組織・自治会等地域住民代表者、市町村担当者

宮城県(総務部・環境生活部・保健福祉部)

●このてびきについてのお問い合わせは 宮城県環境生活部共同参画社会推進課 TEL 022-211-2568